

平成29年度 第1回 織田廣喜美術館運営協議会 会議録

- 1 会議の名称 平成29年度 第1回 織田廣喜美術館運営協議会
- 2 開催日時 平成29年5月17日(水) 10:30~11:45
- 3 開催場所 嘉麻市立織田廣喜美術館市民アトリエ
- 4 公開非公開の別 公開
- 5 非公開の理由(会議を非公開とした場合のみ)
- 6 出席者
  - (1) 出席委員  
緒方 泉(緒方会長)、梅野 巖夫(副会長)、三木 一司、堀 洋子  
山下 みなみ、古賀 修治、木下 勝典
  - (2) 欠席委員  
手島 静恵
  - (3) 執行機関  
嘉麻市教育委員会 生涯学習課課長 長岡 和広  
課長補佐(館長) 上野 智裕  
美術館係 主査 有江 俊哉  
美術館係 地域活動指導員 藤嶋 芳絵  
美術館係 学芸員 三戸 丈治

7 傍聴人数(会議を公開した場合) 0人

8 議題及び審議の内容

【議題】

- (1) 教育委員会点検評価委員の選出について
- (2) 平成28年度決算(見込み)及び平成29年度予算について(報告)
- (3) 平成29年度事業計画について(報告)
- (4) 平成28年度入館者数について(報告)

【提出資料】

- (1) 嘉麻市教育委員会点検評価委員の推薦について(依頼)
- (2) 平成28年度決算(見込み)及び平成29年度予算
- (3) 平成29年度事業計画
- (4) 平成28年度企画展等実績
- (5) 入館者数・施設利用の推移
- (6) 織田廣喜美術館 春からはじまるオダビの催し暦 平成29年度版

【議題及び審議の内容】

(1) 嘉麻市教育委員会点検評価委員の推薦について（依頼）

《主な質疑及び意見》

●嘉麻市教育委員会点検評価委員の推薦について

- ・会議が平日なので、学校関係者は不可。嘉麻市在住者が望ましい。委員会経の参加で学校教育、社会教育、子どもたちの関係が分かり、行政の中身を知る機会になる。
- ・教育委員会内の現状と課題がわかり、大変勉強になった。昨年話題になった内容が本年どのように反映されたのかに興味がある。  
→立候補により、点検評価委員は、梅野巖夫氏に決定

(2) 平成28年度決算（見込み）及び平成29年度予算について（報告）

《主な質疑及び意見》

●歳入のアトリエ等使用料について

- ・アトリエ等使用料は、大きな収入となっているが、嘉麻市絵画交流展などは文化協会の主催事業のため、利用料が免除になり無料で使用しているので、そのような団体が使用しても美術館の収入にはならない。減免となる団体とそうでない団体との比率や違いはどのようになっているのか説明してほしい。  
→嘉麻市文化協会、市内、市外、構成人員の年齢等、規定によって減免額が違う。活用してもらうことが主であるため、比率はデータとして出していない。  
(事務局)

●雑収入について

- ・図録の販売数など、きちんと分析しておくが良い。

●入館者数について

- ・全入館者数 11,177 人の内 6,714 人が貸館の入館者である。全入館者数の3分の1が貸館の入館者であり、貸館は、美術館の運営、活性化に大事な役割を担っている。これからも様々な団体が美術館を利用して文化活動を行ってほしい。
- ・これだけ団体が利用している美術館もなかなかないので、市民が利用する美術館としてLEDライトの設置など作品を見る環境を整えていくことが大切。貸館収入にもなるし、入館者の人数にも反映されている。田川、直方など周辺の美術館の使用状況を調べて比較してみると良い。

### (3) 平成29年度事業計画について（報告）

#### 《主な質疑及び意見》

#### ●第9回嘉麻市絵画交流展について

- ・ 絵画交流展が9回目になり、初めて900人を超える来場があった。展示室入口受付の上に照明が設置され実行委員で好評だった。今後も気が付いた点については要望書を提出していく。

#### ●企画展事業について

- ・ 課題解決に対する対策に企画展の数を見直すとある。見直しも必要と考えるが、魅力ある企画展を多くやっているため、慎重に行ってほしい。

#### ●文化芸術活動推進事業について

- ・ 校長会で美術館を利用するようにPRしているが、学校が利用するバスは、申し込みが必要なので、早め早めに計画をしなければならない。

#### ●体験講座について

- ・ 体験講座の対象が中学生以上になっているが、申し込みはあるのか。  
→ 本年はこれから募集である。市内の中学校にはポスターとチラシを郵送している。昨年開催した篆刻体験では、中学生の参加が1名あった。（事務局）
- ・ 中学生1名でも大事なお客様であり、これから芸術活動に進んでいくきっかけとなる。小さな種をまいていくことが大事である。
- ・ 出前で学校に行ってはどうか。  
→ 学校へ出向くことと、嘉麻市教育委員会で実施している土曜未来塾内に美術館の講座として入っていくなど、学校教育と実施調整中である。（事務局）
- ・ 文化協会やボランティアで絵や書をやっている人がいるのだから連携していくことも良いのではないか。芸術は細やかに見ていかなければならないため、こちらから出向くことも大切と思う。

#### ●夏のアートキッズ展について

- ・ 飯塚のわいわいきっずでは、小学校3年生までは親子で活動するようにしている。今回のアートキッズ展には、参加者に高学年がおらず、低学年だけでは大変だと思われる。丁寧にかかわっていかなければならず、子どもたちの自己肯定感醸成に配慮しつつ実現に向けていかなければならない。綺麗な展

覧会をする必要はなく、子どもらしい展覧会で、子どもたちが苦勞し、うまくいかない理由を考える時間を大切にしてほしい。

実施時期7月～10月と長いので、展示期間中に子どもたちが気づいたことを反映していくような進化する展示にしてはどうか。

●日本画講座について

- ・ 短時間で質のいい作品が多く生み出されており感激した。教室の枠を超えて、一つのサークルとして自立し、文化協会に加盟し、美術館の活動から地域の活動につながっていくような方向性を美術館の運営の中で持って欲しい。

●その他教育普及事業について

- ・ 短期大学では、カリキュラムがいっぱいで学生のボランティア活動への参加は難しいかもしれない。ポスターは掲示している。
- ・ アートキッズでは高学年の申し込みが少ないと報告があったが、学校の様子はどうなのか。  
→低学年は保護者の関わりがあり、参加しやすい環境にある。高学年になるとそれぞれの興味関心が増え、スポーツへの活動が拡がり、文化芸術活動はなかなかしないことが現状である。
- ・ アートキッズで10名、日本画教室で7名の落選者が出ているが苦情は来ているのか。  
→来ていない。(事務局)

(4) 平成28年度入館者数について(報告)

《主な質疑及び意見》

●平成24年度の入館者数について

- ・ 平成24年度の入館者数が突出しているが、何か理由があるのか。  
(梅野委員)

→平成24年度は、前年度までの入館者数の落ち込みが懸念されていて、館内で分析をした結果、20代～40代の男性の入館者数が少ないことが分かり、ロボットのアニメーションの大河原邦男展を実施した。開館から20年の中でも2番3番目に来場者の多い展覧会となった。(事務局)

●入館者数・施設利用の推移について

- ・ 推移がわかりやすいように、常設、特別、貸し館のグラフ化するように求む。

●私のエッセイについて

→社会教育のわたしのエッセイ事業で、題材として、織田廣喜美術館のことを書いた子どもたちが2人いたことを報告。（事務局）

- ・子どもは、良く見ている。美術館は作品を観に来るところでもあるが、建物を楽しんだり、美術館のいろんな楽しみ方を教えてあげると良い。美術館が今まで頑張ってきたことが、定着してきたことがわかる。
- ・広々とした庭園の石のモニュメントで遊んだと書かれている。資料閲覧室から広々とした庭園を見て、芝生を見て、石のモニュメントを見て、子どもたちが遊んでいるのを見ると素晴らしいが、資料閲覧室は空気がよどんでいるので外に出たくなる。あのドアを開放して、外にテラスのようなものを作ってはどうか。その際の虫害のリスク、湿温度のリスクなども懸念されるが、工夫してどうにかできないのか。

(5) その他について

《主な質疑及び意見》

- ・美術館は、学芸員の存在、作品を守る環境があっこそ作品を見せることができる。照明や空調に配慮しながら、国民の財産を預かっているということを意識してほしい。また、福岡市内でも美術館、博物館を巡るミュージアムウィークが開催されているが、ちくネット3館でもミュージアムウィーク等の活動が出来たらいい。

閉会

この会議録は、緒方会長に確認していただきました。